「今と昔」　　黒田　朔

今、阪南市には３４２人の外国人が住んでいる。私たち夫婦も何かお手伝いは出来ないかと「日本語を教えるボランティア」に応募。目下、インド人青年Ｐさんが生徒。「わたしは技能実習生。勤務時間は午前３時からお昼の１２時、毎日、残業がある。」とても頭の良い努力家で日本語力の上達ぶりにはいつも感心。次は日本語検定試験の N3 受験の準備に励んでいる。昨日はＰさんの誕生日。希望通りの「温泉体験とインド料理」で祝う。「ちょっと待ってください。これ、私のママ」とスマホで家族紹介、「次は兄の奥様」など次々と・・・。家を離れて３年目とのことだけれど、こんな連絡ができるのか・・と「ナマステ」などと言いながら、驚き、感心。これでは確かに実距離は離れているけれど、スマホでの身近さは同じ町に住んでいるのと変わらない。私たちがハワイへ移ったころ、もう４０年前のことだが、息子が友達と話したくて、２５セント硬貨を握りしめ公衆電話に向かった頃とは大違い。「今と昔」を思わせる。私たち夫婦が日本語を教えること自体、「今と昔」。日ごとに移り変わる世界でクリスチャンも教会もいつまでも昔の儘を繰り返して良いのかと思う。「今」何をすべきか、何ができるかを考え、実行しなければ！